

緊急時の家族との決め事が大事！

自宅にいたときに地震が発生しました。

初めはいつものように、すぐにおさまるのだろうと思っていましたが、今までに体感したことのない揺れに家の中にいるべきか、外に出るべきかただただ自分の身を守ることで精一杯でした。台所の食器棚からは、ほとんどの食器が崩れ落ち、揺れの大きさに驚きました。



家族の安否が気になりましたが、ライフラインは途絶え携帯電話のメールでしか安否が確認できませんでしたが、小学生の子供は、メールにて学校から連絡があったので迎えに行き、無事に帰宅できたものの、祖母などメールの利用ができない親族と連絡が取れず不安でした。

いつまた、あのような災害があるかわかりません・・・。

家族で安否の取り方を再度話し合い、避難ルートの確認・最低限度の食料の備蓄を心掛けて生活したいと思っています。

震災の一日前に戻ったら、明日おこる悲惨な出来事を多くの人に知らせ、少しでも被害が少なく済むようにできたらと思います。

っ

避難するときはまわりに言づけて ～行く先わからず安否確認に手間どる～

山道で地震に遭って、そのままその地区の避難所に連れてってもらったものだから、私自身「行方不明者」のひとりになっていました。



午後4時過ぎにNHKの取材を受け、それが6時の全国ニュースで流れて、「ああ、生きてる！」ということになったわけです。

そんなわけで、集落の皆さんに大変な心配をかけたうえに、区長としてその日絶対にやらなければいけなかった安否確認などもできなくて、「何の役にも立たなかったな」と、今もそういう気持ちでいます。

翌日の午前中になって、ようやく地元の避難所に移動することができ、さっそく皆さんの安否確認を始めました。ひとりずつ全員をチェックしていったのですが、子どもさんが来て連れていったとかいう人たちは、何も言わずに行くものですから、電話番号を調べたり、行き先を確認するのに、すごく時間がかかりました。

とにかく誰もが自分が逃げることしか考えていませんからね。「ドコドコへ行くよ」なんて言づける余裕はないわけです。やっぱり、前もって情報を出し合っておくことが必要だなと思いました。